

Cannonball Run'94~'95 One Lap of Japan



総合獲得ポイント&ランキング結果発表!

新世代チューニングの快感度を、走り込んで実践した、新時代のチューナー'sキャノンボール・ラン=ワン・ラップ・オブ・ジャパン。東西2400km走破のマルチステージ、ジムカーナ、ヒルクライム、ゼロヨン、ドリフト・パフォーマンス、サーキットタイムアタック、そして最高速、その全ステージをロングツーリングで結び、チューンドパワーやマシンの耐久性、快適性の真価をバトル。各ステージでの迫真のバトル模様は前号(OPT1月号)にてレポートしたとおりだが、いよいよその総合獲得ポイントを集計し、ファイナル・リザルトを発表といこう! そしてその結果、'95東京オートサロン('95年1月6~8日/東京・晴海)会場特設ステージにて、そのチューナー達の栄誉を讃え、表彰式をとり行うことも決定だ! ワン・ラップ・オブ・ジャパンでの死闘や、本に載らなかったウラ話なども、バッチリアクセスできる、ワクワクニュースだぜ!



東西2400kmのマルチステージで、チューンドパワーの真価をバトルしたチューナー'sキャノンボール・ラン。スピード・ハンドリング・加速G・減速キャパシティー・ロングランによる耐久性、そして快適性までもが、新時代のチューンドパフォーマンスとして問われるのだ。



5日間でラリー区間に設定されたルート約2400kmを走破。その間に、ジムカーナ(谷田部)、ヒルクライム(仙台ハイランド)、ゼロヨン(仙台ハイランド)、ドリフト・パフォーマンス(エビスサーキット)、サーキットタイムアタック(サーキット英田)、最高速(谷田部)の6ステージでパフォーマンスを競い合ったワン・ラップ・オブ・ジャパン。各ステージ競技で勝つことは必要条件となるが、その速さだけでは、ワン・ラップ・オブ・ジャパンを制することはできない。

クニックもキーポイントなのだ。クルマの楽しさを思う存分謳歌したチューナー達、完走した面々は、すべてが勝者であることを念頭に、各ステージのポイントを集計し、総合順位を決定した。

各ステージ競技での獲得ポイントは、それぞれのタイムなどの計測データに、各ステージごとに設定された係数をかけ(これは、それぞれの競技での最上位と最下位の得点差が各ステージでなるべく平均化するようにするため)、算出したものを得点として集計。つまり、単に順位による得点ではなく、その競技でのタイム(または速度)差が、そのまま総合得点に反映するようにになっているのだ。

そして、この競技ステージでの得点にツーリング区間で計測した燃費ポイントを加算。さらに、全行程を通じてのアドバンテージやペナルティによる加減点ポイントも加え、そのすべてを集計して総合順位を決定した。

ひとつのステージ競技で飛び抜けて優れていれば一発逆転もあり得たわけだが、同様に苦手なステージを持てばそれが致命傷にもなる。結果、すべてのフィールドにおいて持てるポテンシャルを十分に発揮できることが、勝利につながったと言えるだろう。が、それはロングツーリングをこなしてこそそのチャレンジであり、決してスプリント・スペシャルじゃない、チューニングの完成度を新たに証明したことと言えるのではないだろうか!

また、OPTIONは、キャノンボール・ランに挑戦したい。自分のクルマで、公道を思いっきり走れる、それが走り屋の夢でもある。

今回のこのワン・ラップ・オブ・